情報公開文書
作成日：　2024 年　2 月　6 日

患者様各位
「プレホスピタルでの心肺停止患者における機械的胸骨圧迫に関する検討」研究に関するお知らせ

研究の背景

自宅や屋外など、病院の外でなんらかの理由で心臓が止まってしまった場合(院外心肺停止症例)、絶え間ない胸骨圧迫(心臓マッサージ)が非常に重要です。これまでは救急隊員による人力での胸骨圧迫が行われていましたが、体力的負担や他の処置も行わなければいけないなどの理由のため、最近では機械で胸骨圧迫を行う装置を導入している消防隊がほとんどです。しかし、その装置は海外製であり、日本人の患者さんでは、体格が小柄すぎるなどという理由により装置が使用できず、結果的に従来通りに救急隊員による人力での胸骨圧迫が行われながら搬送されてくる症例にもしばしば遭遇します。

研究の目的

この研究は、当院へ搬送されてくる院外心肺停止症例において、機械による胸骨圧迫を行う装置が使えなかった患者さんの割合や、装置が使えなかった理由を検証することで、装置の有用性や限界を検証します。装置が使用できた患者さんと使用できなかった患者さんのそれぞれの体格(身長、体重など)や胸の厚みなどの違いを比較することで、それぞれの患者さん群の特徴や傾向を分析し、救急医療の現場での適切な使用機材の選択、よりよい活動に繋げることを目的としています。

利用する者（被検者）の範囲と研究期間

対象者：当院の救急外来に、院外心肺停止を主訴に搬送された全症例。

期　間：2020 年 8 月 1 日～2023 年 12 月 31 日

研究に際し行うこと

研究のための特別な検査・投薬・治療等はありません。すでに行われた医療行為や患者さんの基本情報に関して、診療録からデータを収集し解析します。

研究に伴う患者様の負担・不利益

診療記録からデータを収集するだけなので、研究のための患者様の金銭的負担は一切ありません。また研究のための検査や投薬は一切行いません。研究を行うことで生ずる副作用等はありません。

患者様の人権擁護

患者様およびそのデータは、個人が判別出来ないよう処理します。またこの研究のために収集したデータは、この研究以外の目的には使用されることはありません。

御不明な点は，主治医・看護師または下記までお尋ねください。
皆様の御協力に感謝致します。

連絡先
社会医療法人友愛会　友愛医療センター
救急科　山内　素直
電話:（代表）098-850-3811